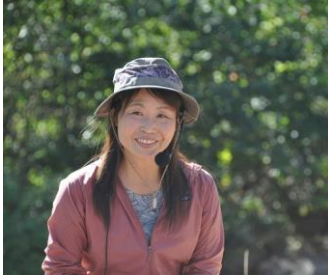


サステナブルツーリズム・トークセッション 2022.10.1 松本市乗鞍高原

主催 日本みどりのプロジェクト推進協議会



進行：中澤朋代さん
松本大学総合経営学部
観光ホスピタリティ学科 准教授

令和4年10月1日（土）、快晴の松本市乗鞍高原で、サステナブルツーリズムトークセッションを行いました。

乗鞍高原での2泊3日のサステナブル・ツアーに首都圏等から参加した皆さんと一緒に、**持続可能な観光地、持続可能な地域づくり**を考えました。

スピーカーは以下の皆さんです。
協議会アンバサダー 渡辺謙さん
環境省国立公園利用推進室 岡野室長のりくら観光協会 宮下会長
協議会会長 阿部守一長野県知事
協議会事務総長 溝畑大阪観光局理事長



日本みどりのプロジェクト推進協議会 アンバサダー 渡辺謙さん

ゼロカーボンとかSDGsって形が見えないですし、何をしたらいいのかわからないですよね。でも、自然を体験する時間とか自然に心動かされる時間が増えていくと、環境を気にするようになりますよね。きれいな景色を見るだけでなく自然のダイナミズムを体感する、実際に体験していろいろな人と話をすることで心が動いて行動に移していける気がします。車はEVがいいのか、暖房は何を使おうかと考えたり、マイボトルを使ったり。必要なものと環境配慮のバランスをどうとっていくのかはすごく難しいけれど、自然を体感すると少し深く考えていけますよね。



日本みどりのプロジェクト推進協議会 会長 阿部守一 長野県知事

長野県は自然豊かな県です。自然とともに暮らしているからこそ気候変動を敏感に感じるんです。だから気候非常事態宣言も県として初めて行いました。でもこの問題は長野県だけでは解決できません。気候変動に敏感な人たちだけが行動しても解決できません。CO2をたくさん出しているのは都会であり、都会に住む皆さんです。是非都会の皆さんと連携・協力しながら対策を進めていきたいと思えます。都会と地方の連携は非常に重要です。互いの暮らしを想像し、観光で実際に見て触れて、メリットデメリットを理解していただきたいです。そうすることによって、都会と地方が共存し、日本全体をサステナブルな社会にしていけるのだと思えます。実際に来ていただいた皆さんには、気づきを是非周りの皆さんにも伝えていただきたいです。

ツアー参加者のご意見・ご感想

- * 白樺の伐採をしたときも、都会の人たちが生み出した負担を自然豊かな地域の人たちが背負っていることを聞きました。自然の変化を実際に来て見て感じて、改めてその言葉に衝撃を受けました。
- * すごく星空がきれいでした。これからもずっと星空が見続けられるようにしたいと思いました！



のりくら観光協会 宮下了一さん



人口減少、高齢化、気候変動などの中で乗鞍の将来をどうするんだっていう不安がありました。地域住民みんなでビジョンを共有したんです。そして脱炭素に向けた具体的な行動を始めました。

今までの観光ってもてなす観光が主だったと思うんです。作りたいのは、地域で抱えている課題に少し関わってもらって、一緒にできることをやってみましょうというお客さんとの関わり。例えばマウンテンバイクのトレイル、歩くトレイル、こういった整備はマンパワーが必要。旅が全部そういうことだとまったくつまらないんだけど、利用する人たちにも少し協力してもらいながら、そこを使って楽しんでもらう。一緒に作っていく観光、それが理想かなと思います。

ツアー参加者のご意見・ご感想

- * 地域を思う熱量の高い方々に出会えたのがとても良かったです。
- * 今回のようなツアーはお子さんがいる方にお勧めです。ゼロカーボンの取組や林業の重要性を学ぶというレベルじゃないところから触れていける気がします。
- * 乗鞍、すごく好きになりました。海外の方が何人かいらっしゃいましたが、こんな自然がある日本を誇らしく思いました。こういうファンを増やしていくことが大事な、この気持ちや写真を持って帰って、インフルエンサーとは言えないかもしれないけど、同僚などに伝えたいです！



環境省国立公園利用推進室長 岡野隆宏さん

旅という非日常体験の中で、日常体験ではなかなか感じられないような気候変動の影響とか自分が何をできそうかを感じてもらって、家に帰って実際の行動が変わることを促していけたらいいですね。子どものうちから自然をどう楽しむかをいろいろ体験することで、自然との関わりとか地域の関わりが出てきて、その中で自分が何か役割を果たせることがあるんじゃないかというようになるとすごくいいなと思います。

エネルギーの地産地消、食べ物の地産地消、そういうことによって地域のお金が地域の中でまわる、観光で地域づくりをやっていくことも重要なポイントだと考えています。サステナブルツーリズムがめざすのは、サステナブルな地域のためのツーリズムであるべきだと思っています。

日本みどりのプロジェクト推進協議会 事務総長 溝畑 宏 大阪観光局理事長

観光の目指す姿って、「住んでよし」という町になること、地域住民が自分の住んでいる資産をしっかりブランディングしてお金がまわる仕組みを作って自立できるようにすることだと思います。だから都会と地方が協力連携していくことが非常に大事だと思います。観光も食もすべての分野のベースにあるのは森だと思います。でも、林業者、森を守っている人たちの数は40万人から4万人になってしまいました。森林面積は減り、放置状態となり災害が多発しています。都会の人と地方の人がもっと交流・連携してみんなで一緒に森を守っていきましょう！ 1億3000万人が思いを共有して、「Go Green」=みどりを体験して、「One Green」=ひとりひとりがみどりの意識を高めて いきましょう！



アンバサダーの渡辺謙さんにご自身のInstagramでもご紹介いただきました。

ご参加いただきました皆さん、どうもありがとうございました。